

2011インターハイ北海道予選会

大会展望

6月24日から26日にかけて、男子29・女子23の計52チームによって旭川を舞台に熱戦が繰り広げられる。メイン会場は旭川大雪アリーナ。

男子はシード権をもつ4校を中心とした争いになりそう。注目は第1シードの札幌月寒であろう。新人戦で優勝し追われる立場ではあるが、「全員バスケ」のスローガンの下、安定したチーム力を武器に念願のインターハイ出場を狙う。同ブロックの注目校は北海道栄。順当に行けばブロック決勝での対決となる。第2シードの旭川大学は2回戦での対戦が予想される恵庭南との試合が鍵となりそう。ブロック決勝の相手は同じ地区の旭川西が有力か。第3シードの札幌日大は1・2年生が主体の若いチームでありながら、札幌予選では王者月寒を最後まで追い詰めた実力を持つ。今大会は更なる活躍が期待できそう。勢いに乗る札幌日大に海星学院、札幌工業がどこまで迫れるかが見どころとなりそう。第4シードの白樺学園は新人戦準決勝月寒戦での惜敗が記憶に新しいところ。同ブロックには東海大四、旭川工業などの実力校がいるが白樺学園が頭一有利な状況であろう。シード校が順当に決勝リーグ進出を果たすのか、2日目の午後から始まるブロック決勝は目が離せない試合となるだろう。

女子は昨年全国3冠を達成した札幌山の手が断然優位であることは間違いない。決勝リーグには山の手の手他に第2シードの帯広南商業、第3シードの札幌創成、第4シードの北星女子が順当に駒を進めそう。組み合わせで少し厳しいのが帯広南商業か。海星学院、札幌東商業と実力校がそろっており、厳しい戦いが続きそう。番狂わせがあるとしたらこのブロックか。開催地の期待が大きくなる旭川藤もシード権の復活を目指し意地を見せたいところ。1,2回戦をしっかり戦い、北星女子とのブロック決勝に臨みたいところだ。インターハイへの切符は2枚。1枚は王者山の手に渡るのは間違いがなさそうだが、残る1枚を巡っての好ゲームを期待したい。

平成23年6月10日

文責（北海道バスケットボール協会強化委員会）